

ライブラリー情報

No.40 Library Information February 2015 愛知江南短期大学図書館 発行

目次

異国への憧憬	/	図書館長	大島 康司
旅のすすめ	/	栄養専攻 助手	丸田 星子
カナダと出会い	/	保育専攻 1年生	相合 彩
楽園の思い出 ミクロネシア大学の語学研修に参加して	/	保育専攻 2年生	畑中 優里
所蔵の本から			
貸出統計 (平成26年12月27日現在)			

異国への憧憬

図書館長
大島 康司

この文章を書くにあたり、数えてみたところ、これまでに20回以上海外に行っていることに気付きました。旅行にまったく興味がなかったはずの私がどうしてこんなことに、と考えそうになりましたが、その理由はあまり深く考えないことにしました。

これまでの経験からの結論としては「世界は広い、しかし、日本が一番だ」ということです。まだ行っていないところの方がはるかに多く、断言してよいものかどうかはわかりませんが、日本で生まれて何十年と過ごして、日本に慣れているため、このような気持ちを持っているのだらうと思います。外国に行く前から、日本が良いところであることを知ってはいましたが、実際に比較してみるとその差は歴然と感じます。食べ物が美味しく、きれいな水が余るほどあり、道路や鉄道がきちんと整備・運営され、公共施設が清潔に保たれていて、自動販売機があちこちに存在し、無人販売所が成立する、そんな国は日本だけだと思います。帰国便から降りると毎回とても安心します。異国への憧憬はどこへ行ったと怒られそうです。

海外に出かけてももっとも感じることは、当たり前ですが「日本と違うな」ということです。異国に到着して、飛行機や船から降りる瞬間から、作業員の見かけや話す言葉、対応方法が違います。案内看板

などを書いてある言葉や記号が違います。空気を吸えば匂いが違うこともよくあります。同じところもありますが、それ以上に違うことが多いということです。この違いの善し悪しはともかく、違いそのものがいろいろな意味で日常とは異なる感覚を与えてくれます。この感覚がどこかへ出かけてみたい、つまり、違いのあるところに行ってみみたい、という気持ちを与えるモノの一つであると思います。歴史的な建造物や他にはない自然などその地に特有の物を訪れることも、もちろん魅力的ですが、普段の生活から完全に離れ、今までとは違う新しい経験をすることにも意味を感じます。

(クルルカン)



(アンコールワット)



旅行で訪れてみたい、というのが一般的な憧れの形だと思いますが、私の憧れ（野望）は「移住」です。日本に住む場所としては良いところですが、夏が暑過ぎ、冬は寒過ぎ、生活費が高過ぎるので、将来はいろいろな面で良い環境の国への移住を夢見ています。現在の計画は、完全な移住ではなく、夏には日本の涼しい地域に住み、冬はタイに住むというものです。タイには何度か行って、他の国と比較すると日本と同じような感覚でいられる、と感じています。気候も温暖で、食べ物も美味しく、贅沢をしなくても生活費も低く抑えられます。また、50歳以上であれば1年間有効なロングステイビザがあり、出入国も比較的自由にでき、タイを中心にラオス、カンボジア、ミャンマーなどの東南アジアの国に行くこともできます。これまでのところは、完全に絵に描いた餅で、まったく計画は進展しておらず、まさに憧れの域を出ていません。それに、まだ他に候補地があるかもしれません。

旅のすすめ

栄養専攻 助手
丸田 星子

私が初めてパスポートを申請し、海外旅行をしたのは二十歳の時だった。大学の先輩に3年生からは実習や就活で夏休みや春休みはないに等しいと聞き（実際はそこまでではなかったが）、この夏行かなければ、と焦りにも似た気持ちが原動力となった。フランスやスイス、オーストラリアなど行ってみたい国はいくつもあったが、低予算で、おいしいものが食べられて、大学のクラスメイトたちが行かない国で…、そんな時、non-no というファッション誌で特集が組まれていたベトナムのホーチミンへの旅の記事を読んだ時「ここだ!」と思った。野菜がたっぷりでおもしろいベトナム料理にかわいい雑貨、予算も15万円ほどですべての条件を満たしていた。

それまで飛行機さえ乗ったことがなかった私は1人ではさすがに不安なので同志を募ったところ、気心の知れた高校時代の友人と英会話に堪能で海外旅行経験もあるアルバイト先の先輩という、願ったりかなったりという同志が見つかった。旅行計画を立てる上で様々なガイドブックに目を通したが、ガイドブックには旅慣れた人向けの情報もそうではない人向けの情報もつまっている。おとなしくバックツアーを申し込めばいいものの、私たち3人はバックパッカーのための情報に魅了され、航空券を取っただけで宿さえも抑えることなくベトナムへ向かった。ホーチミンの空港を出て、すし詰め状態のバス（といっても、古いワゴン車で窓にはガラスが入っていない）に乗り込み、安宿の多い地域まで運んでもらう途中はさすがに不安になったが、バスを降りると5人ほどのベトナム人がわっと寄って来て、それぞれに写真を見せながら、「泊らないか?」と声をかけてきたので、あっさりと宿の確保はできた。ホーチミンを感じる旅にしよう、これが3人で決めたテーマだった。感じるためには現地の味を知らなくては、と屋台や街の食堂、市場で、とにかくよく食べた。雑草?と言いたくなるような野性味あふれる葉野菜が山盛り乗ったフォー（ベトナムの麺料理）や見たことがないどぎつい色でごつごつした果物など、尻込みすることも多かったが何でも食べた。屋台なら100円でおなかいっぱい食べられたし、隣で食べるベトナム人から「こんにちは〜」と声をかけられ、お互いにあいさつ以上の言葉がわからないから意思の疎通は大してできていないのだが、楽しかった。

もちろん、安くて、おいしくて、楽しい思い出ばかりではない。水道水は飲めるほどきれいではないからミネラルウォーターを何度も買いに行かなくてならなかったし、雨が降ると道路は冠水し、履いて行った靴は泥だらけになり履けなくなった。絵葉書を売る小さな女の子に「いち、にー、さん、しー」と日本語で数を数えながらついてこられ、何とも言えない気持ちになったり、「安くするよ〜、かわいいね〜」と親しげだったバイクタクシーには日本人ならもっと払えるだろうと脅されたりもした。たった5日間の滞在だったが、とても刺激的な経験だった。刺激が強すぎたのか、帰ってきてから3日間発熱し、体重は3キロ減った。



カナダと出会い

保育専攻1年生
相合彩

短大の海外語学研修を利用して、2014年7月3日から二週間カナダに語学留学しました。そこでの出会いは、私にとって一生忘れられないものになりました。

カナダのキャスルガーで12日間ホームステイさせて頂きながら、平日はセルカークカレッジに通いました。私を受け入れてくれたホストファミリーは、父母娘の3人と、大型犬と黒猫2匹の家族でした。娘のエリアは18歳で私より年下でした。いろいろな事を話して、一緒に犬の散歩に行き、お互いの大好物のドーナツを食べに行きました。しっかりした子で、まるで妹と姉が一度に出来たようでした。お父さんとお母さんは、多くの事を私に教えてくれました。子どもと関わる仕事をしていて、留学生を受け入れる事に慣れているお二人は、ゆっくり分かりやすいように話してくれました。分からない単語もジェスチャーなどで伝えてくれました。そのおかげで、家族の話している事はほとんど分かるようになりました。

セルカークカレッジでは、私たちよりも長い期間留学している学生と一緒に勉強しました。先生は生粋のカナダ人、そして授業中は日本語を話しては行けないというルールがありましたが、長期留学生が丁寧に教えてくれて授業内容を理解することが出来ました。最初のうちは、長期留学生のみんなとは距離がありましたが、いつのまにかお弁当と一緒に食べるようになりました。仲良くなってから話を聞いたら、長期留学生のみんなは、私たちが来る前に仲良くなった留学生との別れを経験していたため、新しく来た留学生と仲良くするのをためらっていたそうです。この話を聞いて、みんなのことがより好きになりました。出会えたことに感謝し、一緒に過ごせる時間を大切にしよう、そしてこの出会いを日本に帰っても大切にしようと思いました。

キャスルガーの町には二つの大きな川が流れています。その川から小さな湖や大きな湖ができ、その周りは公園やビーチになっていました。湖の水はとても綺麗で、山に固まれ青い空が湖に映った景色は、今までに味わったことのない癒しと開放感がありました。家庭の水道水は、山からの雪解け水で、すごく美味しくて、毎日飲んでいました。この水の味と解放感、たくさんの経験や出会いを思い出す度にいつかまたカナダに行きたいと心から思います。



楽園の思い出 — ミクロネシア大学の語学研修に参加して —

保育専攻2年

畑中 優里

ミクロネシア連邦は南太平洋の島々からなる国です。グアム島の南に位置しています。江南市はミクロネシア連邦とフレンドシップ提携をしており、国際交流をしています。愛知江南短期大学は2012年からミクロネシアの首都ポンペイにあるミクロネシア短期大学と提携を結びました。私は2014年3月の春休みに2週間の英語研修に参加しました。

ミクロネシア連邦のポンペイまで、セントレアをお昼に出発してグアムで乗りかえてポンペイに着くのは真夜中になります。気候は昼間には汗をかくぐらい暑く、夜になると涼しくなり、朝方になると寒くて長袖を着るほど気温差があります。昼間は過ごしやすい暑さで日本の都会の暑さとはまた違っています。ポンペイはヤシの木やバナナがたくさん茂り、リンゴの木には小さなリンゴがなっていました。

ミクロネシア大学の寮には、Wi-Fiがあり日本との連絡がとれる良い環境でした。ポンペイは年中暑いのでシャワーは水だけでお湯は出ないので寒くて仕方なくお湯が恋しかったです。でも、水が良いのか髪の毛はサラサラになりました。ミクロネシア大学はポンペイだけでなく、チュークやコスラエ、ヤップ、グアムなど様々な場所から来た学生たちが学んでいます。ポンペイに住んでいない人は寮で生活しているので、私たちは彼らと友達になりました。マイクロジャパンクラブのメンバーの4人です。ポンペイ生まれのポンペイ育ち20代後半で大学に通いながらインターネットの大学で弁護士になる勉強している人、グアムからポンペイに来て日本語を学び来年は日本の大学に留学をする予定の人、整備士になるためにグアムから引っ越してきたバスケットが得意な人、40代だけど大学に行きたくてミクロネシア大学に通っている人がいます。ジョークが好きでいつもジョークを言っていますが少し不機嫌になると言い合いになりますが見ているだけでも楽しい人達です。ポンペイの人はみんな面白くてフレンドリーでした。

ポンペイの食べ物はとても美味しかったです。初めて食べる物もありました。最初に驚いたのはバナナの素揚げです。日本でバナナを揚げて食べる場所を見たことがなかったため、初めて食べるときはとても抵抗がありましたが食べてみるとお芋のように甘くて食べやすく、私は友達に分までもらって食べました。ヤシの実のジュースは甘くて飲みやすかったです。外国では食べ物が口に合わないことが多いと聞いていたので不安でしたが、食堂で出される食べ物はメニューも味も日本とさほど変わらないと感じました。醤油やソース、日本の調味料が置いてありました。ご飯に醤油をかけて食べている学生もいました。

私たちはポンペイの伝統的な飲み物「サカオ」も体験させてもらいました。サカオはある植物を石でたたき潰して水を加えて絞った汁です。通常は男性が作り、石でリズムカルにリズムをとりながら作業を繰り返し、サカオを作っていきます。彼らはとても楽しそうにサカオを作ります。私たちはこの作業を体験させてもらいましたが楽しいのは裏腹に石が重たくてつらくて筋肉痛になりそうでした。サカオは作ってから最初に飲む人ほど美味しく時間がたつにつれて味が落ちていきます。集まった人は年上の人から順々にサカオを飲んでいきます。それは「上を敬う」という意味があります。味は言葉で表現

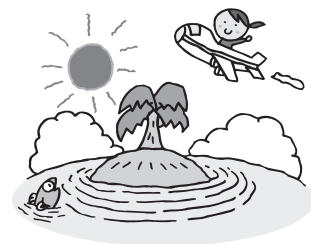
しにくいですが、「とろっ」としていて、なめこ汁のような感じです。美味しいとは言えませんが癖になる味です。酔酩感があって、ふわふわした感じになります。最後はみんな朦朧としながら、苦くなったサカオを飲み続けていました。

滞在中にマイクロジャパンクラブの人たちが私たちをナン・マトール遺跡の探検や登山、シュノーケリングに連れて行ってくれました。ナン・マトール遺跡は13世紀から15世紀に巨石を積み重ねて築かれた、水の中の都市のような不思議な場所です。彼らはナン・マトール遺跡の色々な場所を案内してくれました。海を歩くと石が積み上げられた場所があり上っていくと海が広がっていました。案内してくれた人が「ここにはサメがいるよ。石を投げると出てくる。」と言って大きい石を投げたけれどサメは出てこず、その人は悲しそうに「ごめん」と謝りました。私は「来年またミクロネシアに来ますから、その時にサメに会うのを楽しみにしています。」と言って笑いました。山の上から見るナン・マトール遺跡の景色は素晴らしかったです。ソケースロックという山にもハイキングで登りました。頂上までは思いのほか遠く、斜面が急で少しつらかったのですが、頂上に着くとつらさを忘れる絶景と爽快感がありました。帰り道には戦車や防空壕などがありそこで戦争があったことを感じました。戦車の上に乗ることもできました。少し不安な気持ちになりましたが自由だからこそ楽しくここに居られるのだと思えました。

私たちはナーラップ島という島に行きシュノーケリングをしました。ナーラップ島はとても小さな島でボートに乗って移動します。ちょっとした旅行のようなものです。海は透き通っていて魚も見えます。サンゴ礁があるためサメの心配もなく泳ぐことができました。私たちは泳いでいる時に幼い2人の女の子に出会いました。ぎこちない英語で彼女たちと遊んでいるといつの間にか仲良くなって、いっしょに泳いだりサッカーをしたり様々な遊びをしました。日本で言う手遊びも教えてもらいました。その時に教えてもらった手遊びは日本の有名な手遊びで英語の中になまった日本語も入っていました。日本語の童謡も歌ってくれて昔の日本人の遊びが子どもたちに伝わっているのだと思い感動しました。彼女たちをキャンプに招いて一緒に焼きマシュマロなどを食べたり、遊んだり、写真を撮ったりしてたくさん時間を過ごしました。夜に空が見やすい場所へ行くと星が綺麗で天の川が見えました。初めてプラネタリウム以外で美しい夜空を見たので橋の上で寝転がり眺めていました。私はその空を見ながら、英語をもっと話せたらもっといろいろなことが話せたのと思い、日本でもう少し勉強しておけばよかったと後悔しました。彼女たちとはその夜しか会えませんでした。先日友達から連絡があり「女の子2人組が私のことを覚えていたよ」と言われてとてもうれしくなりました。

ポンペイでの日々は本当に楽しくて、最終日には別れるのが辛くて別れのあいさつで私たちはみんな泣いていました。ミクロネシアの友達たちも涙目になりながら「泣かないで。君たちは強い。」と励ましてくれていました。私たちは空港で働いている人にまで励まされるほど大泣きでした。こんなに貴重な体験ができてとてもうれしく思います。

昨年、マイクロジャパンクラブの友達のうちの2人が国際交流で江南市へ来る機会がありました。「みんなに会いたい。」と言ってくれたのでそのうちの1人は私の家にホームステイをしました。家族は私が今までやろうとしなかったことなので驚いていました。私はもっと英語の勉強をしてミクロネシアの人たちと交流したいと思い、SNSを使ったりして連絡を取り合っています。私は卒業して働きながらミクロネシア大学の留学を目指して、日々英語を学んでいきたいと思っています。





ヤップ島にて、文化交流会。昔のおもちゃを作りました。ヤップ島の民族衣装です。




刺繍がきれいなボンペイのスカート
色々な柄があり、どれもきれいです。
女の人は大人も子供も着ていました。





サカウづくりの体験
思った以上に大変でした。


☆ 所蔵の本から ☆


オリンピックの東京での開催が決まり、日本を訪れる外国の方に接する機会が増えることでしょう。母国語がドイツ語やフランス語、スペイン語などの国の方たちも、英語も話せる人もいらっしゃいますので、これから色々な国の人と交流することができるかもしれません。日本の文化や食事を英語で紹介する本や、英語発音の基礎や実用的な英語表現の本を本館で所蔵している本から選ばせていただきました。

 絵でわかる英語で紹介する日本文化 桑原功次 著 ナツメ社 2009年
日本家屋・温泉・日本的な日常習慣や行事・伝統芸能などが簡単な英語で紹介されています。日本語対訳のかわいいカラーイラスト付きです。

 英語で作る和食 藤田裕子 著 ナツメ社 2014年
日本食は美味しく、美しく、健康にもよいと外国の方からも人気です。分かりやすい英語で日本食の調理法を説明することができます。日本語対訳のオールカラーです。

 英会話きちんとフレーズ100 スティーブ・ルビン著 アルク 2012年
ネイティブが使うシンプルで自然なきちんとした英語表現を楽しく学べます。フレーズは幼児→小学校低学年→小学校高学年→中・高校生→大学生の各世代の会話の中で学びます。

 レストランサービス英会話 林ひろみ 著 柴田書店 1998年
レストランや売場での具体的な82場面を英会話で学べます。
外国の方を英語で接客するときや、自分自身が外国のレストランで食事をするときの参考に。

 書いて覚える楽しいフォニックス 斉藤留美子、斉藤了著 マガジンランド 2011年
英語の発音をABCの基礎から勉強しましょう。

平成26年度 貸出統計 冊数 (4月1日~12月27日)

コース・専攻	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
こども健康学科 栄養専攻 1年	17	11	56	37	9	5	9	13	15	172
こども健康学科 栄養専攻 2年	0	4	4	2	5	1	14	3	12	45
こども健康学科 保育専攻 1年	11	19	116	36	16	1	17	18	61	295
こども健康学科 保育専攻 2年	5	180	2	14	109	6	14	34	32	396
こども健康学科 保育専攻長期履修 1年	58	43	30	44	3	3	15	13	25	234
こども健康学科 保育専攻長期履修 2年	1	25	30	0	7	4	4	9	23	103
現代幼児学科 長期履修 3年	22	97	6	21	59	1	19	37	19	281
合 計	114	379	244	154	208	21	92	127	187	1526